

高齢患者の透析導入指導表の見直しと作成

中村真衣子、小玉麻友美、石川恵理子
足利サツ子、成田律子、佐藤文子、成田雪美
秋田組合総合病院 西3病棟

<Ⅰはじめに>

当院では、平成17年1月から平成18年1月までの1年間で、25名の患者が新規に透析導入されており、平均年齢は67.3歳であった。日本透析医学会・統計資料によると、2005年末の慢性透析患者に関する基礎集計では、わが国の透析患者全体の平均年齢が63.8歳、導入時平均年齢は66.2歳となり、高齢者が多く導入している現況にある。

当病棟では、「血液透析導入指導表」（以下指導表）を使用し、血液透析導入時の患者教育を行っている。しかし、従来の指導表では、高齢患者が指導表の内容を全て理解することは困難であり、看護師からのアンケート結果や意見をもとに高齢者の特徴を捉えた新たな指導表を作成し、使用した結果を報告する。

<Ⅱ研究目的>

高齢患者の特徴を捉えた新たな指導表を作成し、今後の指導、援助に役立てる。

<Ⅲ研究方法>

1. 期間：平成18年5月～11月
2. 対象：病棟看護師22名
3. 研究方法
 - 1) 病棟看護師22名にこれまでの指導表についてのアンケート調査を行う。
 - 2) アンケート調査の結果から新たな指導表を作成する。
 - 3) 作成した指導表を実際に高齢者の新規透析導入患者に使用する。
 - 4) 実際に新たな指導表を使用した看護師に再度、アンケート調査を行う（図1）。

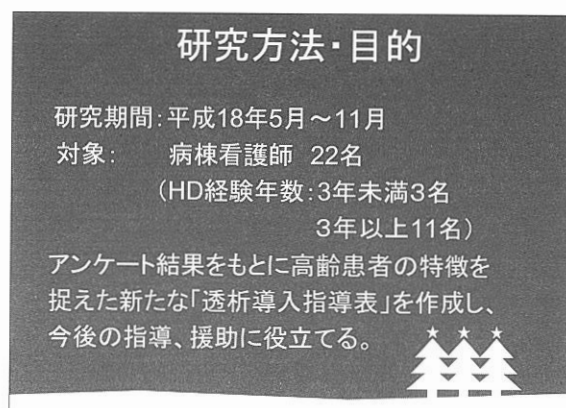


図1

<Ⅳ結果>

これまでの指導表は、「疾患」「血液透析の働き」「シャント管理」「食事」「検査値」「体重管理」「薬」「日常生活管理」について、更に細かく52項目にわたる内容が網羅されていた。評価は5段階で、Aがよくわかっている。Bがわかっている。Cがまあまあわかっている。Dがわかっていない。Eが全くわかっていないとし、導入時と退院前の2回、家族を交え、評価を行っていた(図2)。

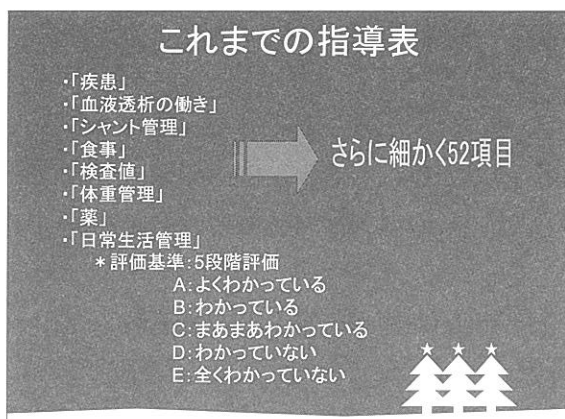


図2



図3

アンケートの結果から、特に「疾患」に関しては9項目あったが、そのうち「不要になったホルモンの不活化」が(15名)、「ビタミンDの活性化」が(14名)「造血刺激ホルモンの分泌」が(13名)の順に看護師22名中63%が指導は不必要であると回答した。その反面、「血液透析の働き」、「シャント管理」とともに(17名)、「食事」、「日常生活管理」、「薬」が同様に(16名)、「体重管理」(13名)については68%の看護師が必要であると回答した(図3)。

自由記述方式で指導の際に困ったことについて回答してもらった結果、「指導する項目が多く、患者自身が覚えきれずに中途半端な状態で終わることもあった」「覚えることが多すぎて大変だと言われた」「教育の内容が細かく分かれておりやりづらかった」「高齢者は忘れがちなため、指導の内容を絞った方が良い」との意見があった(図4)。

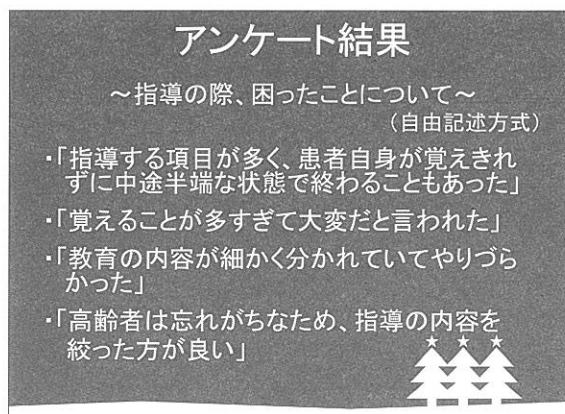


図4

これらの意見をもとに学習内容を整理し、新たな指導表を作成した。新たな指導表では、患者用と看護師用の指導表を別々にし、患者用の指導表は、文章は分かりやすく丁寧な言葉で表現し、

簡潔に示した。さらに、知識を正しく理解してもらうこと、患者自身が積極的に学習に臨めることを目標に自己評価欄を設けた。評価基準は3段階とし、「○」が分かる。「△」が少し分かる。「×」が分からないとした。なお、評価は患者の理解度や身体的・精神的状況に応じて退院までに行うこととした(図5)。

看護師用には、統一した指導・援助が行われるよう患者説明や評価の基準となるチェックボックスを設けた。また、これまでと同様、外来透析で継続して指導が行われるよう、「評価に関する申し送り事項」の欄を設け、退院後、腎センターに指導表を持参して申し送りをし、連携をさらに深められるようにした(図6)。

図5

図6

実際に新たな指導表を70歳以上の3名の患者に使用した結果、患者からは「分かりやすい」「自己評価できるから自分がどこまで覚えたか分かって、やる気が出る」という意見が聞かれた。看護師からは「時間をかけて重要ポイントについて指導ができるようになった」「今までよりも指導がスムーズに行えた」との意見が聞かれた(図7)。

新たな指導表を使用した結果

患者からは

- ・「分かりやすい」
- ・「自己評価できるから、自分がどこまで覚えたか分かって、やる気が出る」

看護師からは

- ・「時間をかけて重要ポイントについて指導ができるようになった」
- ・「今までよりも指導がスムーズに行えた」

図7

<V考察>

高齢者は、記憶や図式推測など新たに学習したり、覚えたりする能力が低下すると言われるが、これまでの指導表は内容が多く、患者の混乱を招いており、高齢患者には適していなかったと言える。しかし、看護師側はそれら全てを指導しなければならないという意識が働いたため、指導

が一方的なものになっていたと考えられる。新たな指導表では、患者中心の目標を立て、自己評価する欄を設けたことで患者自身の学習意欲の向上につながり、患者中心の看護をしていくうえで有効であると考えられる。

三村¹⁾が「高齢者の学習能力は、効率が低下するものの、時間をかけて覚えれば新しいことが学習できるという特徴を持っている」と述べているように、新たに作成した指導表は内容を絞った分、時間をかけて関わりをもてるようになり、指導・援助がスムーズに行えたと考える(図8)。

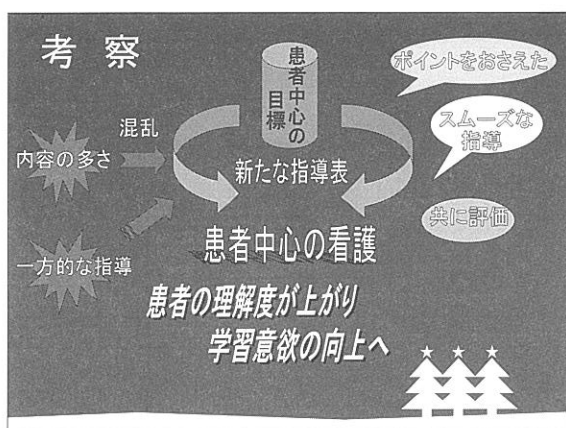


図8

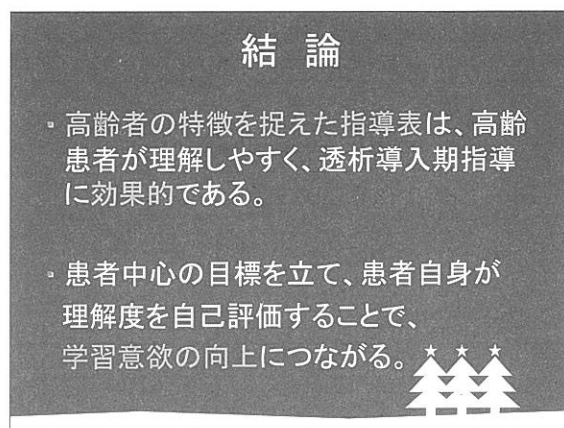


図9

<VI結論>

1. 高齢者の特徴を捉えた指導表は、高齢患者が理解しやすく、透析導入期指導に効果的である。
2. 患者中心の目標を立て、患者自身が理解度を自己評価することで、学習意欲の向上につながる(図9)。

引用文献

- 1) 三村洋美：身体的・精神的な特徴をふまえたケア，透析ケア，2003